

授業改善推進中期プラン 国語〔中学校第3学年〕

昭島市立 清泉中学校

学年等		項目	内 容
令和 四 年度 第 1 学 年	令和 四 年 10 月	学習に関する生徒の実態・課題	○授業に対しては真面目に取り組む姿勢が身についてきた。課題に対しても前向きに取り組む生徒が多い。 ▲家庭学習の習慣が身についていないことで採れるべき問題が解けない。漢字に対しての苦手意識が拭えないため、得点源になるはずの漢字で足下を掬われている生徒が目立つ。まずは、家庭学習の習慣を身につけさせ、暗記すべきものは覚えさせる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・漢字をはじめ、語彙力を身につけさせ、様々な場面において自分の言葉で自分の気持ちを表現できるようになる。また、発表の場面においても、どんな話し方なら自分の気持ちが相手に伝わるかなどを考え、プレゼン力を身につけさせたい。
		具体的な授業改善の方策	・家庭学習の習慣づけのため漢字練習のプリントや単元の復習プリントを配付し、間違えている部分を添削したあと返却する。自分が間違えた部分のやり直しを行い、自身の躓いている部分を克服させる。ある程度の期間を設け、繰り返し添削を行っていく。
	年度末	第1学年における生徒の達成度と第2学年に向けての課題	・苦手意識をもっている漢字に関して、日常から少しずつ行う習慣を身につけさせ6割以上は書けるようになった。 ・語彙力を高め、発表(プレゼン)の際自分の言葉で自分の気持ちを表現できるようになった生徒が、3割程度なので、具体例を挙げたりひな形を作って授業を受けている生徒が参加できる環境を作り、書いたものを少しずつ添削していく。
令和 五 年度 第 2 学 年	令和 五 年 10 月	学習に関する生徒の実態・課題	○苦手な漢字学習に前向きに取り組む生徒が増えてきた。 ○提出物・課題に取り組む生徒も増えつつある。 ▲漢字・語句・文法に関して苦手意識をもっている生徒が多く、家庭学習の習慣が身につけていないため学習が定着しない。 ▲授業内で発言する生徒がどのクラスも偏っているため、挙手できない生徒に発言する機会を与えられるような授業にする。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・漢字・熟語など、今以上に身に付け、作文や発表(プレゼン)の際、自分言葉で自分の気持ちを表現できるよう力
		具体的な授業改善の方策	・授業内に小テストを行い、知識の定着を図る。 ・授業の内容を復習できるプリントを単元ごとに配付し、授業で行った内容の振り返りができるようにする。 ・授業の内容が分かる板書プリント・内容復習プリントを配付し、授業の振り返りができるようにする。
	年度末	第2学年における生徒の達成度と第3学年に向けての課題	全体的には授業に対して前向きに取り組んでいるが、家庭学習の定着に課題が残る。また、提出物の質も多く多くの生徒は上がってきたが、3分の1の生徒は文章を考える問題を敬遠しがちで、答えを写すことが目立つ。文章問題は概ね問題ないが、漢字に関しては苦手意識が取れない生徒が少なくない。暗記する内容のもの(特に漢字、語句関係)を日頃から学習する習慣づけと、自分の言葉で気持ちを表現する文章練習、発表時の強弱など、工夫した表現能力を身に付けさせたい。
令和 六 年度 第 3 学 年	令和 六 年 10 月	学習に関する生徒の実態・課題	○漢字学習には前向きに取り組んでいる。 ○提出物・課題に取り組む生徒が大半である。 ▲読解・文法に関して苦手意識をもっている生徒が多い。読解問題・文法問題に取り組むことの少なさからか、定期考査等の正答率を著しく低い。 ▲問われていることを理解できていない生徒が相当数いる(口頭・文章を問わず)。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・漢字・熟語など、基礎となる知識。 ・問われていることを正しく理解する力。 ・問われたことに対し、正しい筋道を立てた回答の方法
		具体的な授業改善の方策	・授業内に小テストを行い、知識の定着を図る。 ・問いを要約する練習(口頭・文章を問わず)。 ・文章構造(文相互の関係)を捉え図式化する練習。 ・図式をもとに多くの問題を解くことで、読解に慣れる。
	年度末	中学校3年間のまとめ	